



文化継承の大切さを学ぶ

長内中学校1年生が、総合学習の一環で山根地区の文化継承について授業を受け、地域について学びました。

9月10日に山根市民センターの地域おこし協力隊 田端涼輔さんを講師に迎え「久慈市の魅力、協力隊として働くこと・生き方」について講演いただきました。田端さんは「便利なものが増えすぎると考えることはなくなる」「よく久慈市には何もないという人がいるが、何もないことは悪いことじゃない。都会のような大型施設があればよいなと思うかもしれないけれど、それが本当に必要なものなのか考えて」とメッセージを送っていました。講演後、長内地区と山根地区について学び、生徒たちは久慈市の良いところや山根地区の文化について意見を述べていました。山根地区の人口減少を目の当たりにし、文化継承の大切さについて学び、それを子どもたちが担っていけるように学校と地域で協力して文化を守ってほしいと思います。



市の魅力について話す田端さん



剣舞の歴史について語る小上さん(右)と障子上さん



剣舞の衣装を展示

ほそのねんぶつけんばい

9月26日は、山根の伝統芸能・細野念仏剣舞保存会事務局の小上好文さんと障子上裕也さんを講師に招き、長内中学校の1年生が伝統文化の継承についての授業を受けました。

細野念仏剣舞の歴史について、小上さんから語っていただきました。「言い伝えでは、200から250年ほど前、天明の大飢饉の時に諸国をめぐっていた僧が踊りを教えたといわれています。昔はお盆に家の庭先にかがり火をたき、剣舞と盆踊りを代わる代わる一晩中踊り、お盆の前後10日間にわたって各家を周り、隣の集落まで行って踊ったそうです。男性の踊りのため、戦時中は徴兵で伝統が途絶え、その後高度成長期の出稼ぎで途絶えました。昭和40年代に市教育委員会の当時の教育長が復活を希望し、よみがえりましたが、昔は13種類ほどあった踊りが、今では『太刀』『扇舞』『八祓い』などしか伝わっていない。高齢化や人口減少で継承者は10人程度となってしまっています」。

数少ない若手の踊り手の障子上さんは「長内中では山根中との合併後の約6年前から、伝統継承の取り組みを続けています。少しでも興味を持って、踊りを学んでほしい」と話していました。

長内中学校ではこれからも学校全体で踊りを学び、久慈秋まつりや学校文化祭での剣舞の披露を目指しながら、細野念仏剣舞の伝統継承の取り組みを続けるということです。